



Vol. 18 No. 1 Jan 2005 「札幌医科大学附属図書館図書館ニュース」改題



札幌医科大学附属図書館情報誌

SAILING

SApporo medical university Library's Information NaviGator

2005年もSAILINGをよろしく！

平成17年度国外学術雑誌整備計画掲載

C ONTENTS

平成17年度国外学術雑誌整備計画	
について……………	103
大学図書館相互利用サービスとは？……………	111
ぶっくぼすと	
カウンターから……………	113
図書館は国家試験もサポートします……………	114
お知らせ	
寄贈資料のお知らせ……………	114
図書館日誌……………	115
札幌医学雑誌の投稿受付について……………	115



平成 17 年度国外学術雑誌整備計画について

これまでの経過

国外学術雑誌の収集計画は、平成 15 年度より学内関係各位のご協力の下、「学内冊子体 1 誌化事業」を開始しました。学内冊子体 1 誌化事業は当館が加盟する日本医学図書館協会電子ジャーナル・コンソーシアム事業（下コラム参照）への参加を通し、電子ジャーナルの効率的、かつ網羅的な収集をはかるとともに、学内における冊子体の重複購入を解消し、本学の国外学術雑誌に係わる予算の効率的な執行をはかることを目的としています。ここでは、この事業を開始してから次年度で 3 年目を迎えるにあたりこれまでの経過および次年度以降に向けての課題と展望について報告します。

電子ジャーナル・コンソーシアム事業とは？

特定非営利活動法人（NPO）「日本医学図書館協会」が推進する出版社を単位とする電子ジャーナル・パッケージの包括契約事業です。出版社によって契約内容に若干の相違はありますが、現行の契約規模を維持しつつ、かつ一定額を上乗せすることにより非購読誌も含めた当該出版社の生物・医学系電子ジャーナルがパッケージとして利用できる契約形態で、「Big Deal（ビッグ・ディール）」とも呼ばれます。

1. 「学内冊子体 1 誌化事業」実施後の経過状況

「学内冊子体 1 誌化事業」を進めるにあたり、以下の作業を行ってきました。

（1）「学内冊子体 1 誌化事業における購読予定タイトルの選定方法

本学の国外学術雑誌購読予定タイトルの選定は各講座等の購読希望調査をもとに検討を行っています。

（2）電子ジャーナル・コンソーシアムへの参加維持要件

現在、提供中の電子ジャーナルの多くは日本医学図書館協会電子ジャーナル・コンソーシアム事業への参加によるものです。上コラムのとおり同コンソーシアム事業は非購読誌も含めた各出版社の電子ジャーナルをパッケージとして利用するための包括契約ですが、多くの出版社は契約にあたり現行の購読金額の維持を前提にしています。これは図書館購読誌に限らず、講座購読誌であっても購読中止予定のタイトルがコンソーシアム対象出版社発行誌であった場合は契約そのものの継続が困難となります。そのために、冊子体の新規購読による所要額を増やさないことが必要です。1 タイトルを新規購読することによって、所要額が増え、次年度のコンソーシアム契約の際、その所要額を維持する必要が生じるためです。

（3）購読中止予定誌の重複調整履歴の確認

平成 14 年度にコンソーシアム契約の維持要件である冊子体購読金額を極力抑えるため、学内での重複雑誌調整作業を行いました。そのため現在購読されている冊子体を中止する場合は調整履歴を確認し、重複調整対象誌であった場合は調整に応諾した講座との間で調整を行っています。

2. 国外学術雑誌価格等の動向

(1) 冊子体

表1: 上昇率

区分	要素	平成16年度	平成17年度
附属図書館	原価	7.93%	6.93%
	レート	-4.89%	0.09%
	係数	0.05%	-4.72%
	税込金額	2.61%	4.84%
大学全体	原価	6.83%	7.64%
	レート	-4.49%	0.23%
	係数	0.05%	-5.24%
	税込金額	1.45%	4.15%

各欄の%比は、対前年度比です。

毎年度の国外学術雑誌の冊子体価格は下記のとおり、原価、為替レート、国内代理店取次ぎ手数料(係数)によって決定されています。表1は価格を構成する各要素について平成16~17年度の上昇率を示したものです。国外学術雑誌価格高騰の最大の要因である原価については依然として厳しい上昇が続いていることに変わり無く、学術雑誌収集整備計画そのものについてこれまで以上に慎重、かつ迅速な対応が求められる結果となっています。

$$\text{国外学術雑誌価格} = (\text{原価} \times \text{東京三菱銀行顧客向けレート} \times \text{国内代理店係数}) + \text{消費税}(5\%)$$

(2) 電子ジャーナル

電子ジャーナルは今日の学術情報流通の進展において中心的、かつ重要な役割を果たしています。この傾向は、本学においても例外ではなく、平成16年度利用状況を一部ご紹介します。

* Nature Publishing Group 社の電子ジャーナル・コンソーシアム

年間利用件数は10,733件。そのうち特に利用の多かったタイトルは次のとおりです。

Nature 本誌・姉妹誌・レビュー誌・・・6,279件

(そのうち、Nature 2,706件、Nature Medicine 1,003件)

Oncogene・・・1,795件

* Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America・・・3,559件

ここ数年、冊子体購読機関に対する電子ジャーナルの無料提供を廃止し、有料とする傾向が見られますが、本学での利用頻度が高いタイトル(Nature、Oncogene、Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America等)がいずれも有料化あ

るいは価格体系変更による高額化されており、利便性が増した分、経済的負担も増す傾向にあります。表2は、2005年までに価格体系が変更された電子ジャーナルです。

表2：価格体系変更一覧

タイトル	変更年	変更前	変更後	価格上昇率(%)
PNAS (註1)	2004	EJ 価格は、冊子体金額に組み込み。	EJ 価格は、FTE 方式を導入。	77.4
Nature	2005	EJ 価格は、FTE 方式。	EJ 価格は、FTE 方式。冊子体、EJ 共に大幅な価格高騰。	39.1
New England journal of Medicine	2005	EJ は、冊子体のオプション扱いで8万円程度。	EJ が主となり、冊子体がオプション扱いに変更。医学系固定料金64万円。	680.0
Rockefeller	2005	—	EJ 価格は、FTE 方式を導入。3誌で約4万円の上昇。	—
BMJ	2005	EJ 無償公開。	EJ は、別途有償化。	—
Oncogene	2005	EJ 価格は、冊子体金額に組み込み。	EJ は、別途有償化。	—

註1：PNAS = Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America

註2：FTE とは、利用機関内での構成人数および組織体系等の規模によって、価格帯を数段階に分けて設定する方式

註3：EJ = 「電子ジャーナル」とします。

3. 平成17年度整備結果報告

10月24日開催の図書館運営委員会です承を得た平成17年度購読予定の国外学術雑誌の概要について報告します。結論としては、例年どおりの原価高騰となりましたが、円高ドル安等の影響により、附属図書館が提供した昨年度のタイトルは確保できました。前述のとおり、冊子体の原価高騰に加えて電子ジャーナルの価格体系変更に伴う大幅な価格高騰が重なりましたが、一部のタイトルにおいて、提供媒体を冊子体から電子ジャーナルへと切り替えることにより、所要額の削減を図りました。さらに、予算額に対して超過する不足額については図書館既決予算を流用しました。

(1) 整備上の基本的な考え方

閲覧可能誌数については電子ジャーナルと冊子体を問わず、本年度同様とする。

後述2の予算案のとおり不足額が発生することから、不足額の抑制を目的とし、コンソーシアムの冊子体維持要件を超える金額部分について冊子体の購読中止を行う。

によっても超過する不足額については図書館既決予算により対応する。

(2) 冊子体数

平成17年度冊子体購読予定誌数は表3のとおりです。内訳は、大学全体で新規購読4誌を含

め 604 誌で、本年度より 23 誌の減少となっていますが、Nature 社 8 誌と電子ジャーナルのみに移行した 15 タイトルも減少誌数に含んでいるため、実質的な減少は 12 誌となります。新規購読および購読中止タイトルの詳細につきましては後述の「2005 年新規購入・中止雑誌のお知らせ」をご参照ください。

新規購読誌

新規購読誌については「Nature reviews immunology」と「Nature reviews microbiology」の 2 誌について検討の要望があり、電子ジャーナル・コンソーシアムで新規導入しました。

購読中止タイトル

次年度購読予定誌については前述の「整備上の基本的な考え方」に基づき、現状の誌数維持に努めた結果、「Nature Publishing Group」発行誌に価格高騰が発生したことにより、同発行誌 8 タイトルの冊子体中止に替え、電子ジャーナル・コンソーシアムへの切り替えを実施することにより、新規購読希望 2 誌の電子媒体での導入を行いました。また、Lippincott 社の「AIDS」については、コンソーシアム維持原則に基づき、電子ジャーナルでの閲覧を優先させる形に替えることにより、冊子体の中止を行いました。

講座購読誌の希望聴取では 2 つのコンソーシアム対象出版社発行誌で計 4 誌の購読中止希望がありましたが、購読中止額が各々の出版社の維持要件範囲内を越えるものが一部ありましたが、出版社側との交渉等により次年度においてもコンソーシアム契約が継続できることになりました。

表 3 . 平成 17 年度冊子体購読誌数集計結果

区 分	H16	H 17 冊 子 体 購 読 異 動 内 訳					合計	差異 -
		新規	冊 子 購 読 中 止 数			小計		
			中止	廃刊	電子 J			
図書館	335	0	9	1	0	10	325	-10
講 座	292	4	17	0	0	17	279	-13
合 計	627	4	26	1	0	27	604	-23

註 1 . H17 年冊子購読中止数内訳の「電子 J」は電子ジャーナルのみへの変更数

2 . H17 合計 は H16 と H17 新規 の計より H17 冊子購読中止数小計 を除した値

(3) 電子ジャーナル

平成 17 年度において提供を予定している電子ジャーナル数については次のとおりです。
なお、電子ジャーナルの正式な提供は契約上、新年 4 月 1 日となりますので予めご了承ください。

Medical Online の試行導入

Medical Online は、日本国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学、歯学、薬学、

看護学、医療技術、栄養学、衛生・保健等の各分野の著作権許諾済みの文献を PDF 化し、フルテキストで提供する国内学術雑誌で構成した電子ジャーナル・パッケージです。現在提供している商業誌や学会誌は 300 誌以上に上り、必要な文献はその場で全文閲覧・ダウンロードができます。次年度以降の学術雑誌整備計画の再検討の一環として、4月から12月までの9ヶ月間試行導入することにしました。

Kluwer Academic Publishing 社発行誌の提供について

昨年、Springer Verlag 社(以下、Springer 社という)が Kluwer Academic Publishing 社(以下、Kluwer 社という)を吸収合併しました。これにより、Kluwer 社発行誌(電子ジャーナルを含む)が Springer 社へ移行することになり、集録タイトル数が 500 を超えることになりました。

表4 . H17 年度提供予定電子ジャーナル誌数(出版社別)

出 版 社 名	誌 数	備 考
Annual Review, Inc	12	H17 試行予定
Blackwell/Munksgaard	約 340	H14 よりの継続
BMJ Publishing Group	25	H17 試行予定
Cambridge University Press	79	H17 試行予定
Cell Press	4	H14 よりの継続
John Wiley & Sons	約 85	H16 よりの継続
S. Karger AG	75	H17 試行予定
Journals@Ovid	20	H11 よりの継続
Lippincott Williams & Wilkins	100	H14 よりの継続
Nature 及び Nature 姉妹誌、EMBO Journal、EMBO Report	10	H15 よりの継続
Oxford University Press	61	H17 試行予定
ProQuest Health & Medical Collection	約 270	H15 よりの継続
Rochefeller University Press	3	H15 よりの継続
Science	1	H14 よりの継続
Springer Verlag	約 500	H14 よりの継続
Thieme Publishing Group	32	H16 よりの継続
Medical Online (国内学術雑誌)	約 300	H17 新規

註1 . 冊子体購読機関に対し、無償提供を行っている出版社を除く。

2 . 備考欄の「H17 試行予定」は単年度の試験提供の検討を行っている出版社。その他は平成 15 年度両教授会において了承された出版社および図書館システムによる継続提供誌。

4 . おわりに

学内学術雑誌整備を進めるにあたり、平成 15 年度より「学内冊子体 1 誌化」事業の主旨に沿って作業を行ってきました。これまでの3ヵ年の成果としては、予算の効率的な執行を目的とした手段として、電子ジャーナル・コンソーシアムへの参加により、閲覧可能なタイトル数を大幅

に提供できるようになりました。しかしながら、毎年の雑誌原価高騰と電子ジャーナル提供方法の変更による価格高騰により次年度以降、予算額に対する大幅な不足額の発生が予想されています。この傾向は平成16年度以前も同じであり、今後も前年度比で7%前後の値上がりが続くと思われます。また、電子ジャーナルについては本学でも特にニーズの高いタイトルの価格高騰があり、それは尋常な数字ではありません。このような現象は、冊子体では見られなかったことであり、今後どのような形で価格の提案が出てくるのか、全く予想がつかない状況になっています。事業そのものは当初の計画どおり進行していますが、国外学術雑誌を取り巻く環境は依然として厳しく、平成18年度も再度の不足額発生が見込まれており、その対策を館内で十分検討した上、図書館運営委員会においてご審議いただきたいと考えております。

(図書管理係 池崎 康)

2005年新規購入・中止雑誌のお知らせ

新規購入雑誌 *印の雑誌は、本館または他の講座で継続購入している雑誌です。

[外国雑誌]

British journal of plastic surgery	Vol.	58	~	形成外科(診療科)
Clinical biomechanics	Vol.	20	~	理学療法学科
Hand clinics	Vol.	21	~	整形外科学講座
Nature reviews immunology (電子ジャーナルを購入。冊子体未購入)	Vol.	5	~	附属図書館
Nature reviews microbiology (電子ジャーナルを購入。冊子体未購入)	Vol.	3	~	附属図書館
Radiation protection dosimetry	Vol.	113	~	物理学教室

[国内雑誌]

Clinical neuroscience	Vol.	23	~	脳神経外科学講座
* MdN	Vol.	129	~	中央写真室
痛みと臨床	Vol.	5	~	整形外科学講座
* がん看護	Vol.	10	~	看護部
産業精神保健	Vol.	13	~	神経精神医学講座
実験医学	Vol.	23	~	神経精神医学講座
* ビデオ SALON	Vol.	49	~	中央写真室
* 周産期医学	Vol.	35	~	産婦人科学講座
病理と臨床	Vol.	23	~	病理部
* 薬学図書館	Vol.	50	~	附属図書館

購入中止雑誌 *印の雑誌は、本館または他の講座で新規・継続購入している雑誌です。
 (ただし、寄贈で受入れ継続の雑誌は、除いています。)

[外国雑誌]

AIDS	Vol.	18	まで	附属図書館
Care management journals	Vol.	3	まで	看護学科
Clinical and experimental hypertension	Vol.	26	まで	内科学第二講座
Deutsche zahnärztliche Zeitschrift : Halbmonatsschrift für Zahn-, Mund- und Kieferheilkunde	Vol.	59	まで	口腔外科学講座
Experimental lung research	Vol.	30	まで	内科学第三講座
Experimental neurology	Vol.	190	まで	解剖学第一講座
Journal of burn care & rehabilitation (電子ジャーナル提供)	Vol.	25	まで	救急集中治療部
Journal of cardiovascular electrophysiology	Vol.	15	まで	機器診断部
Journal of cardiovascular pharmacology	Vol.	44	まで	内科学第二講座
Journal of child neurology(電子ジャーナル提供)	Vol.	19	まで	小児科学講座
Journal of pediatric gastroenterology and nutrition (電子ジャーナル提供)	Vol.	39	まで	小児科学講座
Journal of prosthetics and orthotics : JPO	Vol.	16	まで	リハビリテーション部
Journals of gerontology. Series A, Biological sciences and medical sciences	Vol.	59	まで	理学療法学科
Nature biotechnology (電子ジャーナル提供)	Vol.	22	まで	附属図書館
Nature cell biology (電子ジャーナル提供)	Vol.	6	まで	附属図書館
Nature genetics (電子ジャーナル提供)	Vol.	36	まで	附属図書館
Nature medicine (電子ジャーナル提供)	Vol.	10	まで	附属図書館
Nature neuroscience (電子ジャーナル提供)	Vol.	7	まで	附属図書館
Nature reviews genetics (電子ジャーナル提供)	Vol.	5	まで	附属図書館
Nature reviews molecular cell biology(電子ジャーナル提供)	Vol.	5	まで	附属図書館
Nature reviews neuroscience (電子ジャーナル提供)	Vol.	5	まで	附属図書館
Pediatric nephrology (電子ジャーナル提供)	Vol.	19	まで	小児科学講座
Quality of Life Research	Vol.	13	まで	作業療法学科
Victorian poetry (電子ジャーナル提供)	Vol.	42	まで	英語教室
Victorian studies (電子ジャーナル提供)	Vol.	46	まで	英語教室
Vision research	Vol.	44	まで	眼科学講座

[国内雑誌]

Medical practice	Vol.	21	まで	内科学第三講座
Medical science digest : MSD	Vol.	30	まで	解剖学第一講座
NHK ラジオドイツ語講座	Vol.	54	まで	ランゲージ・ラボ ラトリ
NHK ラジオビジネス英会話	Vol.	18	まで	ランゲージ・ラボ ラトリ
NHK ラジオフランス語講座	Vol.	55	まで	ランゲージ・ラボ ラトリ
NHK ラジオロシア語講座	Vol.	42	まで	ランゲージ・ラボ ラトリ
The English journal (CD-ROM 含)	Vol.	34	まで	ランゲージ・ラボ ラトリ
コマーシャルフォト	Vol.	45	まで	中央写真室
ジュリスト	Vol.	2004	まで	法学・社会学
高次脳機能研究 : 日本高次脳機能障害学会誌	Vol.	24	まで	作業療法学科
写真工業	Vol.	62	まで	中央写真室
神経研究の進歩	Vol.	48	まで	解剖学第一講座
総合看護	Vol.	39	まで	看護部
蛋白質・核酸・酵素	Vol.	49	まで	物理学教室
中毒研究	Vol.	17	まで	薬剤部
日本手の外科学会雑誌	Vol.	21	まで	整形外科学講座
日本臨床救急医学会雑誌	Vol.	7	まで	救急集中治療部
日本臨牀	Vol.	62	まで	内科学第二講座
別冊ジュリスト	Vol.	2004	まで	法学・社会学

その他

[誌名変更]

European journal of biochemistry	FEBS journal	Vol.	272	~	附属図書館
ターミナルケア	緩和ケア	Vol.	15	~	附属図書館

[休刊・廃刊]

Heart disease	Vol	5	まで	附属図書館
現代医療	Vol	36	まで	附属図書館
精神科診断学	Vol	15	まで	神経精神医学講座
Quality nursing : the Japanese journal of nursing education & nursing research	Vol	10	まで	看護学科

大学図書館相互利用サービスとは？

どのようなサービスかご存知ない学内利用者もおりますので、ここで紹介させていただきます。

大学図書館相互利用サービス(以下、相互利用サービスという。)は、学生証・身分証明書等の提示だけで、他大学の学生・大学院生・教職員に直接「閲覧」、「複写」、「貸出」のサービスを実施するものです。相互利用サービス加盟館内の大学図書館(次ページ参照)でサービスを受けることができます。

図書館間の相互貸借によらずに直接サービスが受けられる便利な制度です。

北海道内の大学図書館間の相互協力をさらに推進して、教育・研究活動の発展に貢献することを目的として1999年に発足しています。まだ道内の一部の大学図書館しか加盟していないのですが、徐々に加盟館が増えてきています。当館は2003年4月に加盟いたしました。

1 サービスとして受けられる内容

「閲覧」、「複写」及び「貸出」の各サービス。

利用の詳細については、利用する図書館の利用規定に従って下さい。

2 サービス対象者

相互利用サービスに加盟する大学に所属する「学部学生」、「大学院生」並びに「専任教職員」です。

3 必要書類

当大学が発行している「学生証」、「身分証明書」、またはそれに代わる図書館が発行する「依頼状」等を、利用する図書館に提示して下さい。

4 相互利用サービス加盟館 加盟館リスト参照(次ページ)

5 相互利用サービス加盟館の利用について

利用する図書館のカウンターに申し出て所定の手続き(「学生証」、「身分証明書」等の提示等)を行うことで、「閲覧」、「複写」及び「貸出」の各サービスを受けることができます。

利用する館によって多少手続きの方法等が異なりますので、利用する館の指示に従って利用して下さい。

6 注意事項

利用にあたっては、あらかじめ利用する図書館の開館スケジュールや資料の所蔵状況等を、ホームページ等を使って確認してから利用して下さい。

自家用車で利用する図書館へ行くことは出来ませんので、公共交通機関を利用して下さい。

貸出冊数・返却期間等は各図書館により異なりますが、図書を借用した場合には、貸出期間を守り、丁寧に利用して下さい。返却は貸し出しを受けた図書館に直接返却して下さい。

備品及び図書館資料を汚損または亡失したときは利用者が弁償の責を負います。なお、当館にも事故発生を連絡して下さい。協力して問題の解決にあたります。

いろいろ細かいことを書きましたが、たとえば、当大学の学生でしたら学生証を提示するだけで加盟館リストにある図書館が利用できますし、比較的簡単な手続きで利用できますので、是非「大学図書館相互利用サービス」を利用してみて下さい。

何かわからないことがありましたら図書館カウンターまでお問い合わせください。

(利用サービス係 福井 堅一)

大学図書館相互利用サービス加盟館リスト

2005年1月現在

旭川大学図書館	北海道教育大学附属図書館札幌館
藤女子大学図書館	北海道東海大学付属図書館
藤女子大学図書館花川館	北海学園大学附属図書館
北海道浅井学園大学図書館	北星学園大学図書館
北海道文教大学附属図書館	帯広畜産大学附属図書館
北海道医療大学総合図書館	小樽商科大学附属図書館
北海道情報大学図書館	酪農学園大学附属図書館
北海道工業大学図書館	札幌大学図書館
北海道教育大学附属図書館旭川館	札幌学院大学図書館
北海道教育大学附属図書館函館館	札幌医科大学附属図書館
北海道教育大学附属図書館岩見沢館	東京農業大学オホーツク学術情報センター
北海道教育大学附属図書館釧路館	

23 館



カウンターから

この1年半ほどカウンターで利用者の方と接しておりますが、その中で最も多いのは、学部学生の方々です。本の返却期限をはじめとして、ついお願いしますと言いつつ注意をすることも多くなります。

図書館を利用する側と利用される側ではそれぞれ感じかた、受取り方も異なるでしょうが、図書館のカウンターから見た図書館の利用についてお話しいたします。

入口の入退館

図書館を利用する際にIDカードをカードリーダーに通すのは面倒な気がして、通しそこなうと「もう一度お通してください」になってしまい、IDカード無しで入退館できるのがいいと思われるかもしれません。

しかし、職員のいない特別開館（20時15分以降24時までや、土日祝日）は、それでは誰もが勝手に入退館してしまって、保安上無秩序な状態になってしまいます。

カードリーダーにIDカードを通すことによって特別開館の時間帯でも学内の皆さんや卒業生の方々に図書館を利用いただけるようになっていきます。また、自動ドアやゲートのカードリーダーにIDカードを通すことによって入館者の統計を取っていますので、自動ドアとゲートのカードリーダーにはIDカードを通すようお願いいたします。それとIDカードは本人以外使用できませんので貸与することのないようお願いいたします。

貸出手続

図書、雑誌の貸出は、2階カウンター前の自動貸出装置で手続きをお願いしています。誤って貸出手続がされないままゲートを通りますと警告音とアナウンスが流れますので、貸出の手続が必要なことは、ご理解を頂いていると思います。また、未返却の資料があると新たに貸出を受けることはできませんのでご注意ください。

返却

職員のいる通常の時間帯は、2階エレベーターホールのブックポストではなくカウンターに資料を返却していただきたいのですが、入口に入ってカウンターまで持っていくのは面倒なのかブックポストに返却される方がいます。

特別開館の時間帯のみ2階エレベーターホールのブックポストに返却してください。返却期限の切れている資料はブックポストに返却しても翌朝（金土は翌週の月曜）でないと返却処理がされませんから、返却した当日は資料を新たに借りることはできませんのでご注意ください。

返却期限

借用した資料は、必ず返却期限内に返却してください。貸出を受けるときに書名、返却日の記載されたレシートを発行していますので、借用の都度確認をお願いいたします。

現在図書館では、返却期限が過ぎるとすぐにメールでご連絡しています。メールアドレスは本人が図書館に登録したもので、または学内のメールアドレスですので、メールをご覧にならない方もいらっしゃるかもしれませんが、メールをご覧になったら速やかに資料を返却してください。さらに、学部学生の方には図書館2階に督促の掲示をしています。是非、忘れないで資料を図書館に返却してください。

やはりお願いすることが多くなってしまいました。皆さんが図書館を利用されるにあたってのルールですのでよろしく申し上げます。

（図書館システム係 永岡 茂）

図書館は国家試験もサポートします

2005年

国家試験対策図書を

124種、215冊

(医学、保健医療関係 2004年12月現在)

を揃えています。
ご利用ください。



寄贈資料のお知らせ

下記の資料をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

【財団法人札幌医科大学学術振興会 様】

・スポーツ医学/関節鏡 (キャンベル整形外科手術書:6)

(4階開架 WE168 || C14 || 6)

他66冊

【公衆衛生学講座教授 森 満 様】

・医師・看護・保健・栄養系試験対策国家試験に出る国民衛生の動向：

「国民衛生の動向」から出題される国家試験の傾向と対策

第6版

(4階国試 WA18 || Mo45)

【七戸満雄(5期卒)様】

・めまいは治せる！

(2階展示、4階開架 WV255 || Sh24)

図 書 館 日 誌

【平成16年12月】

- 7日(火) ・学部学生冬季休業に伴う特別(長期)貸出開始
- 10日(金) ・平成16年度NPO日本医学図書館協会北海道地区会、
日本薬学図書館協議会北海道・東北地区協議会合同研修会
於：札幌医科大学基礎医学研究棟共通会議室
21大学・機関 40名参加
- 13日(月) ・開館時間の変更
～1月7日(金) 開館時間 平日 9時 ～ 17時
特別開館時間 平日 17時15分 ～ 24時
土日 9時 ～ 24時
- 17日(金) ・NII Library Week 2004
於：北海道大学附属図書館
中山主任司書、今野係長出席
- 29日(水) ・年末年始による休館
～1月3日(月)

札幌医学雑誌の投稿受付について

投稿に際しましては、「札幌医学雑誌投稿規定」を必ずお読みください。「札幌医学雑誌投稿規定」につきましては2002年より改正になりましたので、札幌医学雑誌最新号の投稿規定をご参照ください(札幌医学雑誌 第71巻第5号 平成14年10月より適用)。

なお、「原著論文」、「総説論文」を投稿される方は「札幌医学雑誌への論文投稿にあたって」、また「学位申請論文」、「学位集成論文」を投稿される方は、それぞれ『「学位申請論文」投稿の手引き』、『「学位修正論文」投稿の手引き』がありますので事前にお問い合わせください。

問合せ先：利用サービス係長 大前好子
(内線2415>E-mail to: ohmae@sapmed.ac.jp)



風連湖

附属図書館へのお問合せ先

お問い合わせ内容	内線	E-mail	担当係
図書館利用に関すること	2425	libserv@sapmed.ac.jp	利用サービス係
雑誌に関すること	2426 2416	serial@sapmed.ac.jp	図書管理係
図書に関すること	2426	book@sapmed.ac.jp	
学外利用者の方はこちらから 学内利用者の方はこちらから	2417 2418	illr@sapmed.ac.jp illo@sapmed.ac.jp	相互利用係
図書館システムに関すること	2422		図書館システム係
札幌医学雑誌の投稿に関すること	2415	ohmae@sapmed.ac.jp	利用サービス係
図書館の庶務に関すること	2414		総務係
図書館へのご意見ご希望に関する こと	2413	nakayama@sapmed.ac. jp	主任司書

～ SAILING 札幌医科大学附属図書館情報誌 18巻1号 ～

編集・発行 札幌医科大学附属図書館

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

(TEL) 011-611-2111 (代表)

(FAX) 011-641-9646 (図書館直通)

発行日 平成17年1月4日